

キャリア支援を考える 5 : 素人談義でのキャリア支援は危険

著者	川喜多 喬
出版者	教育新聞社
雑誌名	教育新聞
号	2550
ページ	3-3
発行年	2005-06
URL	http://hdl.handle.net/10114/8749

キャリア 支援 を考える

—5

江戸時代の医者開業には特別な資格はいらなかった。それでも、当時、1回の往診料は最低、現在の物価に直して3万円もつた。

キャリア支援に当たっているカウンセラー、コンサルタント、アドバイザーなど、様々な専門家が揃っているようであるが、私にいわせれば街角の占い師程度、昔でいえば横町の世話焼き婆さん程度にすぎない場合もあるように思う。なるほど、昔から仲間であれ、上司であれ、もちろん父母、教員であらばこそ、なにくれとなく人生相談・進路相談に乗るってことはしばしばあったことである。しかし、その相談がしっかりした実証研究に基づくものであったか、というと、怪しげである。医学に対する民間療法に等しい。

ただし、組織内プロフェッショナルである藩医、御典医になるには厳しい修業が必要。御典医中のお目見医師になるには「医学館」卒業が資格であったそう(中江克己「江戸の定年後」)。

素人談義でのキャリア支援は危険

江門時代の医者開業には特別な資格はいらなかった。それでも、当時、1回の往診料は最低、現在の物価に直して3万円もつた。ただし、組織内プロフェッショナルである藩医、御典医になるには厳しい修業が必要。御典医中のお目見医師になるには「医学館」卒業が資格であったそう(中江克己「江戸の定年後」)。

江門時代の医者開業には特別な資格はいらなかった。それでも、当時、1回の往診料は最低、現在の物価に直して3万円もつた。ただし、組織内プロフェッショナルである藩医、御典医になるには厳しい修業が必要。御典医中のお目見医師になるには「医学館」卒業が資格であったそう(中江克己「江戸の定年後」)。

江門時代の医者開業には特別な資格はいらなかった。それでも、当時、1回の往診料は最低、現在の物価に直して3万円もつた。ただし、組織内プロフェッショナルである藩医、御典医になるには厳しい修業が必要。御典医中のお目見医師になるには「医学館」卒業が資格であったそう(中江克己「江戸の定年後」)。

法政大学キャリアデザイン学部教授

川喜多 喬

リニア・プロフェッショナルの地位を確立できぬ。